

井原市公共交通会議（令和 7 年度第 5 回）議事録

と き 令和 7 年 11 月 4 日（火）

15 時 00 分～

ところ 井原市地場産業振興センター

5 階大会議室

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 24 名中 19 名

2. 大舌会長あいさつ

3. 協 議

1) 第 2 期 井原市地域公共交通計画の素案について

- ・ 事務局より資料について説明

(委員) 資料 10 頁に記載されている「施策 1-2 ニーズに対応した公共交通の見直し」の「事業①：「井原あいあいバス」見直しの検討」と「事業②：需要や利用実態に応じた乗合タクシーの拡大検討」の関係性について、井原あいあいバスを縮小して予約型乗合タクシーを拡充するという解釈で良いのか。

(事務局) あいあいバスを縮小するとなった場合にそれを補うだけの予約型乗合タクシーのエリア拡大が可能なのか検証が必要で、井原あいあいバスと予約型乗合タクシーの見直しを両方同時に調整していくことになる。

(委員) 資料 13 頁に記載されている「施策 2-1 公共交通サービスの効率化」の「事業②：IT 技術等を活用した乗合タクシーの効率性改善の検討」について利便性と効率性の両方が向上する仕組みを検討することが視点として重要だと感じた。

(委員) 資料 14 頁の「施策 2-3 運転手不足への対策及び交通事業者への支援」の「事業②：国・県・周辺自治体と連携した交通事業者の運転手確保及び運営に対する支援」について、運転手不足が深刻化している中で二種免許の取得費用助成の上限額が去年と比べて半減しており、事業者負担が増加している。人材育成に対する費用負担が今後大きくなることも見込まれるため、支援及びそれに伴う予算の確保について検討をお願いしたい。

(副会長) 資料 6 頁の公共交通の目指す姿について「①どの地域においても市中心部までの公共交通が確保できている」と「③市中心部（拠点）まで行けば、ニーズの高い目的地（病院・商店）や市外に行くことができる」は同様の内容と思われるため、③で乗り継ぎについて明確に記載した方が良いのではないか。③は長距離移動への対応や接続性等について明確な表現にしない

- ければ市民に伝わらない。
- (事務局) 目指す姿については、主旨が伝わりやすい表現を検討したい。③の主旨としては市の中心部へ行けば、市外への広域的な移動も可能となることを意味している。①は中心部へ行くため③では中心部へ行ってからのことを表現している。②については毎日運行が実現できることを記載しているが、記載の順序について検討したい。
- (委員) ③についてニーズの高い目的地に行くというのは中心部へ来て、中心部の中できめ細かく移動できるというイメージだと思っていたがどうか。
- (事務局) 市中心部へ行くことができ、そこから商店や医療機関等への周遊や市外への移動が可能になるという段階をイメージしている。わかりやすい表現に修正したい。
- (委員) あいあいカーのエリアの拡大を検討しているということだが、あいあいバスも乗車率が低いのでともに改善を検討しなければならない。ニーズを見極めることが改善に繋がると考えている。
- また、井原高校の通学時に利用できる便があれば利用してくれると思うので、新規客を開拓するよりまずは必要としている人のニーズに合わせた運行を行うことで利用増に繋がると思う。データの収集などに時間がかかると思うが挙げられた事業を精査することで、目標を設定し、予算配分等を調整してほしい。
- 今後、路線の縮小・拡大を検討する場合は、まずは、交通事業者を中心とした小さい単位の会議で内容を検討して進めて行く形が望ましい。
- (事務局) 計画期間の 5 年間の中で具体的な検討も必要になると考えている。様々なデータを収集しながら、検討・推進していきたい。
- (会長) 計画期間の 5 年間で再編まで行うつもりなのか。現状ではわかりにくい。
- (事務局) 前計画策定時より、社会環境や技術の進歩等が大きく変わっている状況であることから、再編等がどの程度実現可能なのか見極め、実現可能な部分から実施をしていきたいと考えている。
- (会長) 各事業の説明で「検討」という言葉が多く用いられているが、5 年の間で検討だけで良いものなのか。
- (委員) 実施と記載したら良いと思う。全ての理想を実現することは現実的に難しいが、ターゲットを明確にし、具体的な行動に移らないと何も変わらない。不明確な表現が多いと思うのでそこを変えるだけで計画の内容が大きく変わると思う。自動運転に関しても全国的に多くの取組が進んでおり、検討の段階ではないと感じた。
- また、公共交通の目指す姿については①～⑦に同じような理想像が入っており、1 つの文章に複数の要素を入れてしまっていることがわかりにくさに繋がっている。もう少し精査してもらいたい。
- (事務局) 利用ニーズや交通事業者の役割分担等を考慮した結果、全体的に消極的な表現が目立ってしまった。可能な限り踏み込んだ表現に調整したい。

- (副会長) 前計画の検証結果を見ると条件付き達成事項が多く、その理由としてアンケートのサンプル数不足があるが、次期計画の評価項目にもアンケート調査が含まれているため改善が必要ではないか。
- また、基本方針 2「未来を繋ぐ公共交通」に対応する評価指標の「公共交通サービスによる人口カバー率」についてデマンド交通等を導入して現状値の 94.7%から 100%に拡充するつもりだと思われるが、評価指標としている「市内を運行する公共交通の収支率」の見込みは低下すると思われる。どのように考えているのか。
- (事務局) アンケート調査については、バス車内や駅などで実施していたが、サンプル数が不足しており精度が疑問視されていた。次期計画での公共交通全体のサービス満足度を検証するため昨年度市民 5,000 世帯を対象として実施した市民アンケート等の全市的な調査を用いて、より正確に検証したいと考えている。
- 公共交通サービスによる人口カバー率については、あいあいカーのようなデマンド交通を市内全域に導入するということではなく、あいあいバス、路線バス、乗合タクシー等、市内の交通資源を適材適所に配置して 100%を目指す意図で設定している。公共交通の収支率についても、燃料費・人件費が上がっていく中で目標設定が難しい中、現状維持を目指していきたい。
- (委員) 今ある資源を駆使して公共交通サービスによる人口カバー率を 100%にできるなら、現状それができていないのはなぜか。離れた地区に住んでいる人に路線を提供するのが難しいため公共交通サービスによる人口カバー率が 100%にならない状況だと理解しているが達成できるものなのか。
- (事務局) 達成できるとは言い切れないが、どこに住んでいても毎日公共交通に乗れることを目指す姿として目標を設定した。公共交通の目指す姿に近づけるために 100%を目指す必要がある。
- (副会長) 達成できないと思われるなら評価指標自体を変えても良いのではないか。
- (事務局) この計画を推進して各事業を検討する中で判断したい。
- (会長) 達成できる可能性があるのであれば、路線の再編や乗合タクシーの拡大等を進めていくべきではないか。
- (事務局) 段階的に実施に向けた調整を進めて行けば、公共交通サービスによる人口カバー率 100%を目指すことに繋がると考えている。
- (会長) 運転者不足で路線の維持が難しい他自治体では共助型の輸送手段や公共ライドシェア等も活用している、公共交通サービスによる人口カバー率 100%の目標を目指すのであれば、現状維持ではなく新たな取組を進めて行く必要がある。課題は運転手不足と予算不足だと思われるため、どこかの地域で実証的に取り組んでみてはどうか。
- (委員) 運転手不足に関連して、日の丸タクシーではバスの運転手は大型二種免許が必要なため新規の雇用が出来ていないが、普通二種免許で運転できるタ

クシーは企業努力によって新規雇用を進めている。公共交通サービスによる人口カバー率 100%の達成に対して必ずしも運転手不足が課題という状況ではない。カバーができていない地域を分析してもらい、一緒に検討できれば良い。

(委員) 計画書内の用語について、「予約型乗合タクシー」「乗合タクシー」「あいあいカー」と同じような意味合いの語句が頻出しており、わかりにくい。再度全体的に精査をお願いしたい。

(事務局) 改めて全体的に精査したい。

(副会長) SNS での情報発信の話があったが、井原市のフォロワー数は何人いるのか。市の SNS は、どの程度の規模で浸透しているか知りたい。

(事務局) LINE アプリの登録者数は 5,000 人程度であり、メール配信サービスの登録者数は 10,000 人を超えている。そのベースを利用して公共交通の情報提供やアンケート調査、世代などの属性を分けた情報提供ができればと考えている。

(副会長) 行政の SNS は非常に強力なインフラになると思われるので、活用や拡大を検討してもらいたい。福山市では LINE の登録者が 14 万人程度はいると聞いており、登録者が多ければ様々な施策にも活用できる。

(委員) 目標値の設定について、目標値は実績値に対して右肩上がりか現状維持で設定する形が一般的だが、評価指標「バスの年間利用者数及び予約型乗合タクシーの年間利用者数」では現状値 261 千人に対して目標値が 245 千人と減少した値を目標としている。これは人口減等を基に設定したと思われるが、注釈や説明等の工夫が必要である。

(事務局) 将来人口推計等を踏まえ設定したものである。表記については検討したい。

(会長) LINE アプリについて、公共交通の分野でも活用ができるように検討してもらいたい。

2) その他

(委員) タクシー料金について、11 月末より岡山県全体で 13.27%の値上げを予定しており、これに伴い最低賃金も値上げする見込みである。ご理解をお願いしたい。また、タクシーについては新規雇用に力を入れている。運転手不足により利用できないような状況ではなく、昼間からは比較的車両も空いているので是非利用していただきたい。

(委員) 井原市民病院を利用した市外の方から、バスを待っている高校生から挨拶をしてもらえて嬉しかったという話を聞いた。

(委員) 井笠バスカンパニーでは、運転手不足等により 11 月のダイヤ改正から一部の時間帯を減便して運行している。乗り方教室のサポートや SNS を活用した情報発信等、引き続き利用促進を行っていききたい。今年度から交通系 IC カード (ICOCA) にも対応しており、利用率も利用全体の 30%まで上昇している。

- (委員) 井原市の観光部門と協力して市の観光について営業を行う中で、観光資源の知名度等が弱いため、観光需要の拡大も見込めるように工夫が必要だと感じた。
- (委員) 観光の視点が計画素案に見られないが検討を予定しているのか。
- (事務局) 本計画では井原市民や通勤・通学等で井原市に來訪する人の移動手段確保を重点に置いており、タクシーや観光バスについてはそれぞれの部門で検討していくこととしている。
- (委員) 公共交通ということで市民の移動が優先事項であるが、人口減少に伴い利用者也減っている中、観光や教育などいろいろな分野と連携して利用者確保する視点も必要かと思う。
- (委員) 岡山県でも地域公共交通ビジョンの策定を予定しており、素案を基に内容に対して議論を予定しているが、今後はビジョンに沿った事業に対して各市町村や交通事業者と連携して取り組んでいきたい。
- (事務局) 本日いただいた意見を計画素案に反映し、市議会に報告したい。変更点については市議会に報告する前に委員の皆様にお知らせしたい。

5. 閉会

- (副会長) 次期計画素案についてはわかりやすくまとめてもらっているが、改善の余地がある。行政が策定する計画であるため公平性も重要だと理解ができるが、検討するだけでなく一歩踏み出した計画にしてほしい。市民委員の皆さんからも何かあれば事務局に意見を伝えてもらうようお願いしたい。

以上